

西暦	干支	元号	年号		出来事
1600	庚子	慶長	5	加藤清正	関が原の戦い・行長は京都で処刑され、天草は加藤清正領となる 天草久種、小早川秀秋に属し備前に移る
1601	辛丑	慶長	6		
1602	壬寅	慶長	7		
1603	癸卯	慶長	8		家康、征夷大將軍 加藤清正、隈本築城に着手 天草は寺沢広高(唐津藩)の領地となる。広高、富岡に新城を築き番代を置く・検地をする。(4万2千石) 広高、郡内3ヶ所(河内浦・本戸・栖本)に郡代を配置する
1604	甲辰	慶長	9		
1605	乙巳	慶長	10		徳川秀忠、將軍 広高、郡内のキリスト教会を破壊し、禁教を強制する
1606	丙午	慶長	11		
1607	丁未	慶長	12		熊本城竣工隈本を熊本と改称
1608	戊申	慶長	13		
1609	己酉	慶長	14		
1610	庚戌	慶長	15	唐津・寺沢広高・堅高	
1611	辛亥	慶長	16		加藤清正没(50)
1612	壬子	慶長	17		島原城主有馬晴信、岡本大八事件に関して、甲斐に流され、後切腹を命じられる 島原城は、晴信の子直純に与えられる
1613	癸丑	慶長	18		幕府禁教令を布く・宣教師国外追放 天草でも、番代川村四郎左衛門、宣教師追放

西暦	干支	元号	年号	出来事
1614	甲寅	慶長	19	島原・天草はじめ全国でキリシタン弾圧が始まる アダム荒川処刑さる(60) 大坂冬の陣 高山右近等国外追放 有馬直純、日向延岡へ転封
1615	乙卯	元和	1	大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ 細川忠興の次子興秋、豊臣滅亡に際し天草に逃れ隠棲する・御領組大庄屋長岡家の祖 高山右近マニラにて病没(60)
1616	丙辰	元和	2	松倉重政、島原城主となる
1617	丁巳	元和	3	
1618	戊午	元和	4	
1619	己未	元和	5	
1620	庚申	元和	6	細川忠利家督相続
1621	辛酉	元和	7	三宅藤兵衛、富岡番代となる
1622	壬戌	元和	8	徳川家光、将軍 長崎でキリシタン55人処刑(元和の大殉教)
1623	癸亥	元和	9	
1624	甲子	寛永	1	
1625	乙丑	寛永	2	島原藩主、松倉重政、キリシタン弾圧 寺澤広高隠居、堅高相続
1626	丙寅	寛永	3	
1627	丁卯	寛永	4	

西暦	干支	元号	年号	出来事
1628	戊辰	寛永	5	
1629	己巳	寛永	6	踏絵が始まる キリシタン弾圧・長崎雲仙地獄、天草も
1630	庚午	寛永	7	松倉重政死去、勝家継ぐ
1631	辛未	寛永	8	
1632	壬申	寛永	9	徳川秀忠没 加藤忠広配流・細川忠利入熊 踏絵が紙から青銅板へ
1633	癸酉	寛永	10	第1回鎖国令(海外渡航禁止) 天正4少年使節の一人、中浦ジュリアン吊倒しの刑により殉教
1634	甲戌	寛永	11	この年より天草・島原に不作続く・幕府、酒造高の半減を命ず・細川藩、年貢の減免を命ず
1635	乙亥	寛永	12	大火や地震、大風が相次ぎ、7月には肥後だけで34,000戸の民家が倒壊
1636	丙子	寛永	13	春は長雨、夏は干天の凶作 幕府、鎖国令強化
1637	丁丑	寛永	14	天草・島原の乱 が起こる。
1638	戊寅	寛永	15	原城落城・乱終結 天草は山崎家治所領となる。 魚貴崎遠見番所設置 島原乱の斬首級を天草・島原・長崎の三カ所に埋葬、首塚と称する
1639	己卯	寛永	16	
1640	庚辰	寛永	17	
1641	辛巳	寛永	18	鎖国体制完成 山崎家治、讃岐丸亀へ移封、天領となり代官鈴木重成着任 牛深遠見山等に遠見番所設置 郡中行政区割り・10組86カ村・1町 諏訪宮本渡へ移転、本渡の市始まる

山崎家治

西暦	干支	元号	年号		出来事
1642	壬午	寛永	19	代官・鈴木重成・重辰	幕府、九州諸藩に天草への移民命じる 熊本藩は頭百姓50人、男女170人、馬20匹提供する。 重成の兄正三、来島・重成に協力し、各寺の建立等に励む 天草郡で踏絵始まる
1643	癸未	寛永	20		
1644	甲申	正保	1		
1645	乙酉	正保	2		重成、定浦制定める(弁指制)
1646	丙戌	正保	3		
1647	丁亥	正保	4		重成、富岡の首塚に建碑、主祭供養
1648	戊子	慶安	1		東向寺、国照寺建立。重成、寺社領総高300石の証状発す
1649	己丑	慶安	2		慶安の御触書
1650	庚寅	慶安	3		
1651	辛卯	慶安	4		徳川家光死去 崎津八幡宮創立 由井正雪の乱
1652	壬辰	承応	1		
1653	癸巳	承応	2		鈴木重成病没
1654	甲午	承応	3		
1655	乙未	明暦	1		二代代官鈴木重辰着任 天草へ初めて流人送られる

西暦	干支	元号	年号	出来事
1656	丙申	明暦	2	
1657	丁酉	明暦	3	富岡、町となる 江戸振袖大火
1658	戊戌	万治	1	
1659	己亥	万治	2	天草の人口16,000人 石高半減なる(2万1千石) 福連木官山の切り出し始まる 定浦改定・7カ浦から20カ浦へ
1660	庚子	万治	3	遠見番所増設
1661	辛丑	寛文	1	
1662	壬寅	寛文	2	
1663	癸卯	寛文	3	
1664	甲辰	寛文	4	鈴木重辰京都代官へ・天草私領となり三河国田原城主戸田忠昌領となる
1665	乙巳	寛文	5	
1666	丙午	寛文	6	郡中郷村、五人組張始まる
1667	丁未	寛文	7	
1668	戊申	寛文	8	
1669	己酉	寛文	9	

戸田忠昌

西暦	干支	元号	年号	出来事
1670	庚戌	寛文	10	戸田忠昌富岡城を三の丸のみを残し破城する 戸田忠昌関東に領地替え、天草は再び天領となる
1671	辛亥	寛文	11	第二次天領、小川正辰代官・細川藩再び天草警衛。
1672	壬子	寛文	12	砥岐組のみ、島原城主松平忠房の預かり所となる。
1673	癸丑	延宝	1	長崎奉公。 山方約(15人)新設、富岡・崎津・亀川に配置する。
1674	甲寅	延宝	2	
1675	乙卯	延宝	3	砥岐組に替り大矢野組島原藩預かりとなる
1676	丙辰	延宝	4	累年凶作 小宮地新田、下浦小手新田竣工
1677	丁巳	延宝	5	
1678	戊午	延宝	6	天草含む九州北部地方大風雨 富岡大火
1679	己未	延宝	7	
1680	庚申	延宝	8	大飢饉
1681	辛酉	天和	1	
1682	壬戌	天和	2	
1683	癸亥	天和	3	

天領(専任代官)

西暦	干支	元号	年号	出来事
1684	甲子	貞享	1	
1685	乙丑	貞享	2	將軍綱吉、生類憐れみの令 崎津島居建立(現存するものでは天草最古) 八代郡五家荘、天草代官の支配所となる
1686	丙寅	貞享	3	
1687	丁卯	貞享	4	
1688	戊辰	元禄	1	大矢野組、14年間の島原預かりを解かれ天草代官支配下に復帰
1689	己巳	元禄	2	
1690	庚午	元禄	3	富岡新町大火、各寺焼失
1691	辛未	元禄	4	天草の人口34,000人
1692	壬申	元禄	5	高野山僧侶間の派閥争いで天草に140人が流される。
1693	癸酉	元禄	6	江戸の人口、約35万人
1694	甲戌	元禄	7	鉄砲改め、郡中の鉄砲739挺
1695	乙亥	元禄	8	郡中看取年貢始まる
1696	丙子	元禄	9	
1697	丁丑	元禄	10	

西暦	干支	元号	年号	出来事
1698	戊寅	元禄	11	長崎大火
1699	己卯	元禄	12	
1700	庚辰	元禄	13	高野山の配流僧ら赦免
1701	辛巳	元禄	14	赤穂事件
1702	壬午	元禄	15	江戸無宿55人天草へ配流 天草の甘藷栽培、このころ普及(推定) 赤穂浪士討ち入り
1703	癸未	元禄	16	凶作・飢饉
1704	甲申	宝永	1	
1705	乙酉	宝永	2	砥岐組7カ村の男女144人薩州伊佐郡菱刈に移住
1706	丙戌	宝永	3	亀川村に疱瘡流行
1707	丁亥	宝永	4	富岡大火 遠見番所増設 富士山噴火・天草の富士噴火の砂被り被災地救済のため、上納金割り当て(高100石につき金2両づつ)を受ける
1708	戊子	宝永	5	
1709	己丑	宝永	6	代官竹村太郎右衛門嘉茂、天草郡中疱瘡病人手当方を制定
1710	庚寅	宝永	7	
1711	辛卯	正徳	1	天草の人口52,785人。

西暦	干支	元号	年号	出来事
1712	壬辰	正徳	2	天草陶石発見
1713	癸巳	正徳	3	大庄屋制廃止
1714	甲午	正徳	4	天草郡は、豊後日田代官室七郎左衛門重福の兼摂となる 天草の大庄屋、特例として復活
1715	乙未	正徳	5	富岡に蔵元設置
1716	丙申	享保	1	吉宗将軍就任 享保の改革
1717	丁酉	享保	2	唐津浪人広田和平、本村に移り住み天草土人形の制作を始める 明德寺山門建立 遠見番所増設
1718	戊戌	享保	3	天草全島人口65,000人
1719	己亥	享保	4	
1720	庚子	享保	5	富岡でフカ狩り始まる 天草は、島原城主松平主殿頭忠雄の預地となる 在番の肥後兵引揚げ 西目筋(天草灘側)の要所に異国船対策の烽火場を整備 郡中総高21,645石7升7合、初めて定免となる(きかんヶ年・平均4㍶4分)
1721	辛丑	享保	6	全国的に人別改め実施、日本の総人口2607万人
1722	壬寅	享保	7	島原城主松平忠雄、天草初巡視
1723	癸卯	享保	8	
1724	甲辰	享保	9	
1725	乙巳	享保	10	

島原藩・松平氏預かり

西暦	干支	元号	年号	出来事
1726	丙午	享保	11	
1727	丁未	享保	12	享保の大凶作(旱魃・大風・虫害・洪水)による大飢饉。
1728	戊申	享保	13	
1729	己酉	享保	14	強風相次ぎ、郡中大飢饉、餓死者400人余
1730	庚戌	享保	15	このころ甘藷栽培盛んになる
1731	辛亥	享保	16	
1732	壬子	享保	17	凶作続き、幕府は島原藩に命じ、給米千石を貸す(享保の大飢饉) 天草各地とも長雨後の日照りが続き、虫害による凶作 島原藩より公儀救飢米1000石の貸下げを受ける
1733	癸丑	享保	18	西南諸国の餓死者16万9900人(徳川実記・96万と表記) 台風で富岡で大被害
1734	甲寅	享保	19	
1735	乙卯	享保	20	青木昆陽、番藪考一巻を著し、幕府に上申
1736	丙辰	元文	1	
1737	丁巳	元文	2	島原城主松平忠侃、天草初巡視
1738	戊午	元文	3	
1739	己未	元文	4	